

虐待防止策など 子育て支援研修

中四国九州の300人

地域ぐるみで子育てに取り組むボランティア組織や行政の担当者らが連携を深める中四国と九州のリーダーたちの研修会が22日、松山市内のホテルであり、約300人が参加。少子高齢化での現状報告や虐待防止に関するワークショップなどが行われた。

ワークショップには母親らが遠足や折り紙教室などの子育て支援を行って、いるボランティア団体「母親クラブ」の代表者らが出席、虐待が起きる原因や防止策について意見交換した。

「子どもを親の思い通りにしようとする」「子育て支援の情報が行き届いていない」などの意見が出された。「自らの子育て体験を話し、一人ではないと安心させる」「児童館に誘うなど外出させる」などの防止策が発表された。

子育て支援 地域で実践

松山 中四国・九州の300人研修



児童健全育成推進へ、地域や家庭の役割のあり方を探った全国地域活動連絡協議会の指導者研修会は22日、松山市

や味酒児童クラブの活動を紹介。南海放送アナウンサーでみかん一座座長の戒田節子さんが講演し、子育てにおける地域や家庭の役割の大切さを訴えた。

子育て支援にかかわる中四国・九州の母親クラブ員や児童館職員、行政担当者の研修会が22日、松山市一番町3丁目の国際ホテル松山で始まった。約300人が事例紹介や講演会を通じ、活動のあり方を探った。23日までは、児童虐待問題を取り上げ、虐待の原因や対策について議論。参加者からは「地域との関係を築くためにあいさつなどの声掛けを積極的に行う」「親になる楽しさと覚悟、両方を伝えていく必要がある」など活発な意見が上がり、地域での実践について理解を深めていた。

23日は愛媛大俳句学講師の八木健氏の講演などが行われた。

(坂本敦志)

厚生労働省、全国各地活動連絡協議会などが、各県持ち回りで行う年開催。松山市では初めて。学校の空き教室な